



## 「木の葉ブログ」(ビジネススキル強化お役立て情報)

「リーダーシップ研修」の話題から(2016年9月1日投稿)

### AKB48 初代総監督のリーダー論 高橋みなみさんのコミュニケーション術(1)

AKB48 を卒業した高橋みなみさん(略称・たかみな)の『リーダー論』が、たしか半年前位に新聞の書籍ランキングに再登場しました。単行本が文庫本に生まれ変わるときにはよく見られる現象ですが、この本は最初から新書でした。きっと内容が素晴らしいからだろうと思い図書館に申し込んだところ、半年後にやっと手元に届きました。

#### リーダーの5つの仕事

AKB のチーム A の「キャプテン」、そして 48 グループの「総監督」を務めた高橋みなみさんは、その役割をリーダーとしての活動と位置づけました。では「リーダーの仕事ってなんだろ?」と、自分のこれまでを振り返った結果、5つの項目(段階)に分けることができるのではないか、と思うようになったそうです。

**メンバーのことを理解する**・・・AKB48 はたくさんメンバーがいて、特別な個性があり、得意分野や将来の夢、悩みなどもそれぞれで、当初はどうやってまとめるかを悩みました。そして行き着いた結論は、確りメンバーと向き合い、一人ひとりを理解すること。信頼関係を築かないと、どんな言葉も相手の心に響かないとの悟りからです。

**ほぐして、つなぐ**・・・女の子は、小さな集団をつくりがちな生き物だというのが高橋さんの認識。その小さな集団のことを、彼女は「ダム」と呼び、この「ダム」がチームの一体感を邪魔すると看破しました。メンバーの力を一つの方向にまとめるには、チーム内の「ダム」を取り、ほぐして大きな丸をつくる必要があるといいます。

**導く**・・・高橋さんにとって、みんなの気持ちを導く手段のひとつが、スピーチでした。AKB では総選挙のスピーチやコンサートの締めコメントなど、喋ってまとめる機会がたくさんあります。太文字になる言葉をイメージする、「声のトーン」で聞くテンションを作り出すなどは、彼女自身が纏めた「スピーチ7か条」に由来します。

**手本を示す**・・・リーダーであれば誰かを叱らなければならない時が必ずあります。その時のために、日常をきちんとしておくべきと高橋さんは考えました。夢を語る時も、キレイ事だけを連ねても、誰もついてきてくれないからです。努力と行動が伴っていかねばいけない。絶対にブレたらダメなんだ、というのが彼女のスタンスなのです。

**任せる**・・・リーダーの最後の仕事とも言えるのが、「任せる」ことだと高橋さんは思い当たりました。「自分でやったほうが早い」と思っても、グループ全体を考えれば後輩たちに任せて、育てていくべきなのだ。このように意識し始めたのは、彼女が AKB を卒業する 2~3 年前(21・22 歳の頃?) だったそうですから驚かされます。 参考文献:『リーダー論』(高橋みなみ著/講談社/2015年12月24日刊)